

令和7年度  
Vol.2

# グリーンメール

鳴門藍住農業支援センターだより



## 梨ジョイント栽培現地説明会が開催されました！

令和7年6月27日（金）、栽培管理の簡易化と早期成園化を両立する技術である「ジョイント仕立て」を導入している、板野町の高橋梨園と豊原梨園にて、今後のジョイント技術の向上を目的に、梨ジョイント栽培現地説明会が開催されました。

説明会では、神奈川県農業技術支援センター（ジョイント開発県）から講師を招き、更なるジョイント栽培技術の向上を図るべく、現地の状況確認と技術指導を行いました。生産者からの質問も活発に飛び交い、有意義な説明会となりました。



※無断転載厳禁

## れんこん振興大会が開催されました！

令和7年7月29日（火）、腐敗病の発生等により近年収量が低下しているれんこんのV字回復を目的とした、れんこん振興大会が開催され、生産者ら約130人(オンライン含む)が参加しました。振興大会では、収量回復に向けた取り組みのほか、先進地事例として茨城県の(株)れんこん三兄弟・宮本昌治氏および熊本県の「(株)カワカミ蓮根」川上大介氏より、「れんこん経営の取り組み」について、法人化するまでの経緯や現在の取り組み等についてご紹介いただきました。

また、基調講演として、(国研)産業総合技術研究所主任研究員の黒田恭平氏より「持続可能な農業生産を目指した植物病害防除と生産性向上に向けた取り組み」について講演いただきました。

大会の最後には、JA大津松茂の沖野晴彦専務から、「れんこん生産振興対策協議会」の設立宣言が行われ、生産者と関係者が一丸となって生産力の回復を目指すことを明言されました。



※無断転載厳禁

## 徳島県公式LINE友だち募集中

日常生活に密着した県政情報やイベントのお知らせ等を随時配信し、災害時は、安全の確保に直結する緊急・防災情報を配信しています。

登録はコチラ→



## シロイチモジヨトウが多発しています！

成虫は10-15mm程度の蛾で、葉の裏に卵を塊状に産み付け、ふ化した幼虫が葉を食害して成長します。産卵は複数回に分けて行われ、1回の産卵で数十～数百、1匹あたり年5～6回、1000～3000個ほど産卵します。

令和7年6月19日に徳島県立農林水産総合技術支援センターより、シロイチモジヨトウの被害拡大に注意するよう、「令和7年度病害虫発生予察注意報2号」が発令されました。

鳴門市里浦町のサツマイモ栽培圃場に設置されたフェロモントラップ調査(6月第1半旬から第3半旬)の平均誘殺は909頭と平年の約3.6倍となっています。



卵塊

### 防除対策

- ・中・老齢幼虫には薬剤の効果が低くなるので、若齢幼虫期に防除しましょう。
- ・卵塊や分散する前の若齢幼虫を発見したら、速やかに捕殺しましょう。
- ・防除については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守しましょう。



老齢幼虫

かんしょでシロイチモジヨトウに登録のある農薬(令和7年6月11日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	I R A Cコード
アフーム乳剤	1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内	6
コテツフロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで	2回以内	13
ブロフレアSC	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	30

## 熱中症に気をつけましょう！

今年の8月～9月は、**平年より気温が高くなる**ことが予想されています。今年度においてはすでに熱中症による死者が発生しており、今後もさらなる警戒が必要です。これからの時期は特に炎天下での作業になるため、こまめな休憩をとりましょう！

### 農作業で心がけること

- ・日中の気温が高い時間帯を外して作業を行いましょう。
- ・のどが乾いていなくても、**20分おきにコップ1～2杯以上の水分補給**をしましょう。
- ・休憩時は日陰で作業着を脱ぐなど、できるだけ涼しくしましょう。
- ・単独作業を避け、**2人以上の作業や時間交代制**などで互いに体調を確認しましょう。
- ・ビニールハウスは特に熱がこもりやすいので、風通しを良くして作業しましょう。
- ・めまい、吐き気、頭痛、手足のしびれや体のだるさなど、**少しでも体調不良を感じたときはすぐに作業を中断**して、体を冷やす、水分補給をするなどの応急処置を行いましょう。

熱中症予防で最も大事なことは、**無理をしないこと**です。特に70歳以上の方は暑さやのどの乾きを感じづらく、死亡数も**全体の9割弱**を占めています。**少しでも体に違和感を感じたらすぐに休み**、のどが乾いていなくても**こまめに水分補給**をして、熱中症にならないようにしましょう！

## 8月・9月の栽培管理

### 水稻（水管理について）

中干し後は間断かん水を行い、草勢の維持に努めましょう。

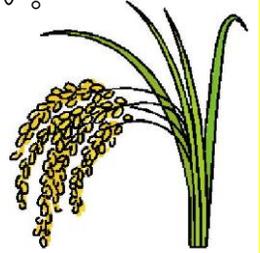
出穂前後2週間程度は、水を切らさない管理が必要です。

また、収穫前の早期落水は、品質・収量低下を招くので気を付けてください。

いもち病や斑点米の原因であるカメムシ類に注意しましょう。

カメムシ類の耕種防除として、生息場所となる畦畔の草刈りが有効ですが、出穂の10～15日前までに終わらせましょう（出穂直前の除草は、カメムシ類をほ場内に呼び込むことになるため行わないでください。）。

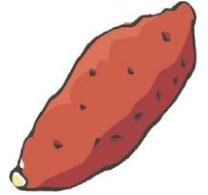
籾の85%が熟れた頃が刈り取り適期です。刈り遅れると品質が落ちるので注意しましょう。



### かんしょ

夏期は、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウ、ナカジロシタバなどの発生が見られるようになります。害虫の発生が多くなると防除効果が低下するので、早めに薬剤で防除を行ってください。

プレバソンプロアブルやフェニックス顆粒水和剤だけを使用するのではなく、ディアナSCやアフーム乳剤などタイプが違う薬剤も使用してください。



### れんこん（イネネクイハムシの防除、腐敗病対策について）

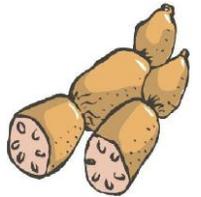
収穫前に落水するまでは、水を切らさないように管理しましょう。

落水は収穫の5日から10日前に行います。

茎葉が緑色の時期に収穫する時は、収穫7～10日前に茎葉を押し倒すか、刈り取ると、呼吸が抑制され、れんこん表皮の褐変（赤シブ、酸化鉄の付着）が低減されます。

すじ掘りは、0.8～1mを残し、4mを掘ります。

腐敗病多発田では、収穫後常時湛水しましょう。



### にんじん 堆肥を施し、土づくりを行いましょう！！

堆肥は、微生物のエサとなり、土壌の団粒構造の形成が促進されることにより、土壌の、透水性・保水性・保肥力が向上し、根に活力を与えます。

※堆肥の腐熟具合にもよりますが、**最低でも播種の1ヶ月程度前に施す**ことを心がけましょう。また、堆肥等の有機資材を施用することで減肥が可能となります。

（牛ふんオガくず堆肥1tあたり窒素2kg・リン酸3kg・カリ3kg・を節減可能）

土壌中の養分バランスを崩さないためにも、積極的に**土壌分析を実施**し、適切な土壌改良及び施肥を行いましょう。



## ブロッコリー・カリフラワー（育苗管理について）

苗立てのセルトレイは200穴または128穴を使用し、育苗培土は与作N-150、愛菜2号等を利用しましょう。

セルトレイは、生育むらや病原菌の感染を防ぐため、直接地面に置かないようにしましょう。

高温時の育苗は、は種後乾燥防止のため不織布等でべたがけを行い、発芽後は徒長させないように直ちに取り除きましょう。

晴天日の日中は、遮光率40%程度の寒冷紗（白、シルバー等）で遮光しましょう。

かん水は徒長防止のために、朝十分行いましょう。

根こぶ病の多発ほ場に定植予定の場合は、根こぶ病にはオラクル顆粒水和剤やランマンフロアブル等をトレイ灌注しましょう。

チョウ目害虫防除のため、定植3～5日前にプレバソン等の登録薬剤をトレイ灌注しましょう。



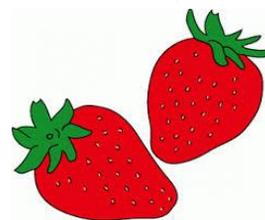
## いちご

### <育苗管理>

定植までは、高温対策として育苗床の風通しを図り、鉢間隔を広めにとります。雨よけ育苗等では、フィルムの上から寒冷紗を被覆するなどして下温します。

病害虫では、炭そ病、うどんこ病、ハダニ類等の防除に努め、健全な苗が定植できるようにします。罹病株や切り離し後の親株は、ただちに処分しましょう。

8月下旬以降の花芽分化誘導期には、体内窒素濃度が低くなるように管理します。さらに、芯止まりの発生を防ぐため、様子をみながら微量要素を含んだ肥料を葉面散布します。



### <本ばの管理>

※必ず花芽分化を確認（花芽検鏡）した苗群を定植するようにしましょう。

土耕では、完熟堆肥等を施用した土づくりや土壤消毒を行います。

高設では、根群の発達を促すため、培地をまんべんなく湿らせてからマルチをします。

定植後2週間は葉水散水や少量多かん水により活着を促します。

病害虫では、うどんこ病、ハダニ類、アザミウマ類などの開花期までに徹底防除しましょう。

## かき

乾燥が続く場合は、かん水を行いましょう。

「炭疽病」は降雨で感染します。台風や大雨で多発するため、降雨前後はしっかりと防除しましょう。

枝病斑から孢子が形成されるので、見つけ次第、切り取って園外に持ち出し処分しましょう。

カメムシの発生に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

カキは風に弱く、台風に遭遇すると落葉、果実のすれ、枝折れ、樹の倒伏の発生が予想されます。防風ネットを設けるなど、事前対策をしっかりと行いましょう。

園地を見回り、日焼け果や擦れ果などの商品性の低い果実は早めに摘果しましょう。

